

国鉄形車両の記録 10系軽量客車

2016(平成28)年3月、かつて夢の超特急と称された新幹線は青函トンネルを抜けて北海道に上陸。これに伴い、14系・24系客車による急行「はまなす」が廃止され、客車列車による定期運用は廃止された。これは、1872(明治5)年にわが国に鉄道が開業して以来、150年近くに及び旅客輸送において貢献した客車列車の歴史に一つの幕が閉じられたことに等しい。しかし、客車に対する人気については、一般旅客用として最後に製造された50系客車が登場して約40年が経過するが、なお引き続き根強いものがある。それは、蒸気機関車や電気機関車そしてディーゼル機関車が牽引する列車には、過去そして現在に分け隔てなく客車が必要不可欠な存在であるのが一つの理由であろう。こうした理由から、近年、鉄道模型業界では往年の急行列車を中心に製品化が続いているが、鉄道模型から実物車両は一体どのような車両であったのかと調査そして研究をする読者の方々も少なくないだろう。

一方で、本誌においては、これまで車両形式特集の一つとして鋼製客車に関する形式特集が1980年代より今日まで発刊された。このうち、2回目に取り上げられる内容も少なくないが、2000年代に入って取り上げられていない特集テーマがある。それが、今回取り上げる10系軽量客車である。1999(平成11)年4・6月号の特集号では故・勝村彰氏が中心となってまとめられた記事は、それまで10系軽量客車のプロフィールがまとまった特集号は少なかったこともあり、あつという間に市場から消えてしまった。その理由は、本論においても記したが、特急列車で使用された時代は非常に短かったものの、昭和30年代から昭和50年代にかけて夜行急行列車には必ずと言っていいほど連結されていた10系軽量客車は、幅広い世代から人気を集めた車両であるほか、車体構造については、後に登場する国鉄新性能電車の礎を築いたことによる。しかし、軽量構造が災いしたため、新幹線開業や電車または気動車列車の置換などで急速に廃車が進んだため、保存車が数両残るのみである。

そこで、今回は国鉄～JR線上から客車列車による定期列車の廃止、10系軽量客車が1955(昭和30)年に登場して本年度60年以上が経過したこと、そして、本年(2017年)は国鉄分割民営化から30周年を迎えることを鑑み、新たな形で国鉄形車両の記録を後世の人々に伝える手段の一つとして本書を発行することになった。読者の皆さんには、ぜひ本書から10系軽量客車について理解を進めていただければ幸いである。

2017(平成29)年1月 鉄道友の会 客車気動車研究会

目次

想い出の10系軽量客車	石原裕紀・伊藤威信 …… 1
星 晃氏のカラー写真に見る 1950～60年代10系客車の記録	構成：藤田吾郎 …… 6
10系軽量客車誕生までの経緯	中村光司 …… 10
10系軽量客車のあゆみ	平石大貴 …… 19
10系軽量客車の近代化改造	和田 洋 …… 56
10系軽量客車の編成記録	千代村資夫・和田 洋・秋元克広 …… 65
10系軽量客車 形式集	構成：平石大貴 …… 71
10系軽量客車 車歴表	作成：鉄道友の会 客車気動車研究会 …… 129

表紙写真：伊藤威信/寝台車車内：石原裕紀

1973.5 長尾 裕

